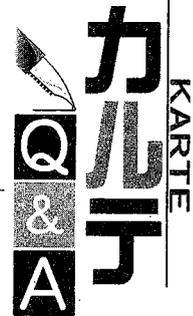


慢性色素性紫斑です。軟こうなどの混合薬を1日2回塗っていますが、良くも悪くもなりません。医師からは「一生治らないかもしれない」とも言われ、ショックです。今の薬を塗るしかないのでしょうか。

(76歳、女性)

慢性色素性紫斑



赤木 竜也 医師

紫斑とは赤血球が小血管から漏れてできる皮膚のことです。色は典型的な紫紅色から、シミのような茶褐色までさまざまです。

血管強化剤内服で改善も

くなり、集まって数センチの斑状となります。しかも数個〜十数個に増えるので、見た目が悪くショックを受ける人もいます。かゆみはほとんどないのですが、まれに非常にかゆがる方もいます。内臓に異常はありませんので生命予後に問題はありませぬ。

えるためにステロイド外用剤を使いますが、効果は限定的です。外用剤で治らない方には出血を抑えるための内服薬が必要で、止血剤であるカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物や血管強化剤であるトラネキサム酸を投与すると改善します。セフアランチンやトラニラストの内

の影響が大きく、再発も多い病気なので、あまりストレスに感じすぎず気持ちを楽に持つことも大事です。
(兵庫県皮膚科医会、赤木竜也 姫路市、赤木皮膚科クリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載します。

す。よく似た症状に湿疹の紅斑があります。こちらは指で押さえると退色するので区別が可能です。

慢性色素性紫斑は、中年以降の人の下肢に紫斑が繰り返し出現し、次第に色素化して慢性に経過する疾患です。最初は数センチ大と小さいのですが徐々に大き

原因としては、下肢に血液がたまりやすい体質が関係あります。年を取ってすねのあたりがむくんだり、静脈が浮いてきたりしている人は要注意です。この体質に原因不明の小血管の炎症が加わると、慢性色素性紫斑になります。

治療には、小血管の炎症を抑

服が奏功したという報告もあります。下肢に負担をかけないよう長時間の立ち仕事を避け、足を高くして休憩を取るようによし

よう。既にできてしまった紫斑は半年で自然に吸収されますが、別部位に紫斑が新生するの

でなかなか完治しません。体質